

議事概要

座長選出	
事務局	設置要領の選考方法に基づき、芝委員を座長に選出
本委員会の位置づけについて	
西表島カヌー組合	保全管理委員会とは、世界自然遺産登録に向けての会議という位置づけにあるのか。
事務局	森林生態系保護地域は世界遺産登録には必要な担保措置となるが、世界自然遺産登録とは別で考えてもらいたい。
委員	西表島森林生態系保護地域の保全管理方針についての会議である
保全管理計画(案)	
第1対象地の概要 2自然環境 (3)生態系	
委員	(3) 生態系とあるが、生物相の記述になっている。生態系とするのであれば、西表島の生態系の特徴を入れるべきである。しかし、西表島の生態系は科学的に解明段階であるため記述は難しいので(4) 生態系と別立てにしても数行の書き込みになると思う。
委員	生物相と生態系は分けて記述し、溪流帯等を生態系とまとめてはどうか。また、ア植物相の記述では、ヤエヤマヒメウツギだけが固有種であり、ヤエヤマカンアオイ・タイワンホトトギス・ナンゴクヤツシロランは固有種ではないため、記載を変えた方がいい。
委員	生態系というのはシステムとして、植物相と動物相、別立てで書いたほうが良い。動物や植物の種名については最新のものを記載してほしい。
事務局	(3) 動物相、(4) 生態系と別立てにする。現段階では生態系については具体的なイメージが無いため、委員や委員に助言してもらいながら記述する。
西表島森林生態系保護地域の拡充について	
事務局	西表島の分収林の一部が解除になり、西表島森林生態系保護地域は1895haの拡充となった。
西表島カヌー組合	現在の社会情勢からも分収林での伐採はないと考える。そのため、分収林の全てが解除となり森林生態系保護地域となったほうがいいと思うが、何故一部分の解除にとどまるのか。
事務局	企業としてもこれまで投資してきたものがあり、全て解除するのは困難だったのではないかと。今後も森林生態系保護地域拡張にむけて取り組んでいく。

これまでの主な保護林モニタリング、森林調査の概要	
西表島カヌー組合	マングローブの立ち枯れや倒伏についての説明をしてもらいたい。また、サキシマスオウノキの樹齢が400年とあるが根拠はあるのか。
事務局	動力船による曳き波、台風による攪乱、高潮等が絡み合っていて影響しているために特定はできない。
事務局	平成17年ごろに仲間川の保全利用協定ができて、自主的にスピードを緩めるようになった。保全センターでは、曳き波の影響と断定できる調査はやっていないため、曳き波の影響評価ができない。
委員	熱帯の植物は、年輪がないので良く分からない。板根からは正確な推定ができない。
エコツーリズムに係る主な取り組みについて	
委員	西表島では、1996年にエコツーリズム協会が発足して、2002年にはガイドラインを作成しているが、ここにきて見直しが必要である。エコツーリズムのガイドの養成カリキュラムは2年では作れなかった。ガイド登録制度まではできないでいる。現在、陸域ガイドは80業者になっており、ガイド登録・認定制度を進めていきたいが、エコツーリズム協会だけでは対応できないため、行政にも入ってもらい一緒に作っていきたい。
西表島カヌー組合	エコツーリズムが推進されているが、疑問を持っている。西表でエコツーリズムとは、何を以って言うのか
環境省	すぐれた自然、消費型の観光ではなく、自然保護のライセンスとして進められている。
西表島エコツーリズム協会	個人的には、ガイド業でエコツーリズムはうたっていないが、環境について理解し、自分たちの地域を理解していくことを目的としている。それぞれの業者によって見解や理解が異なる。
委員	イリオモテヤマネコには、ツアー等で陸域の奥まで入ってくる観光客の影響が脅威となる。委員からの説明にもあるが、問題はエコツアーと観光の区別がつかないことである。行政主導で規制を掛けないと、地元の協会だけでは対応できないという問題がある。どの地域でも、大小の問題を抱えているため、失敗事例の活用もしていくべきである。
委員	他地域の事例としては、昨年度に沖縄県の事業で認定制度に関する調査では、30件の聞き取り調査を実施した。それぞれ、何らかの問題があるという事業者がほとんどであった。ガイド業者は、あまり締め付けられるのは望んでおらず、上から押し付けられるのではなく、自分たちの意見を取り入れて、納得できるルール作りをしてほしいとの要望がある。それらの意見を拾い上げて行く場所も必要だと思う。

登山道の荒廃について	
西表島エコツアーリズム協会	山の荒廃、森の荒廃が顕著である。台風による攪乱や昨年の干ばつによる影響で、生き物がたくさん死んでいる。今年はヤエヤマボタルが見られない。台風による大きな影響で、海岸線が数年で 10m 近く後退しているため、海岸線の保護保全も重要となる。ヤマネコやその他の動物も海岸を相当利用している。
委員	環境への影響を把握していくために、引き続きモニタリングを実施してほしい。
その他	
委員	古見岳は、観光客の入込があるが、世界自然遺産登録後にはさらに入込が多くなり、オーバーユースになる懸念がある。保全管理計画には、保存地区は厳正な保存を図るとあるが、守れるのか。
委員	沖縄県は温暖なため、一年中観光が可能である。世界自然遺産登録後は更に入込数が増大すると考えられるため、現在の自然を無くさないように後世に引き渡していくことが重要である。
事務局	保全管理計画の最終的な取りまとめであり、委員、オブザーバーから出た意見については管理計画に反映していくように調整する。最終的には、本年度内に管理計画を作成する。